2024年度青山学院大学一般選抜（個別学部日程）

教育人間科学部心理学科

小論文

【記述式問題】

【出題の意図やねらい、入学者に求める力】

日本語の文章を論理的に読み解き、その理解に基づいて、自分の考えを適切な表現で展開できる能力が求められる。また、提示されたデータから情報を読み取り、その情報および自分の知識に基づいて、人の心や社会問題について論理的に考える力があるかを問う。

【設問Ⅰ】

設問Ⅰでは、問題文の読解に基づいて、文章全体の要旨を把握できているか、論理展開が再現できるか、筆者の意図を的確に抽出できるか、問題文の要求に基づく思考を経由して適切な答えを導き出せるか、文章内容を応用する形で自分の考えを（単なる感想や意見ではない思考を）正確な日本語で記せるかなどを、字数制限のある記述式の問題によって判断する。

設問Ⅰは、二種類のパズルの文章から構成されている。どちらのパズルにおいても、情報を適切な仕方で整理したうえで、会話の展開に応じて、段階を追って思考することが求められる問題である。問1は（1）のパズルに、問2は（2）のパズルに端的に答える問題である。それに対して、問3は、問1と問2への答えに至る思考のプロセス自体が問われている。しかも、二つの思考過程を比較して、その共通点をまとめるという、さらに高次の思考が必要である。自らの思考について、メタ的に思考をするという能力が求められている。

解答例

問１　３人

問２　7月16日

問３

どちらの問題でも、全ての可能性を表で整理して、絞り込む思考を展開する。⑴では、勝負のつき方の3通りと勝者の数の5通りの組み合わせで表を作り、〈伸びている指の数〉の可能性を15通りに整理する。⑵では、月と日の組み合わせとして考えることができて、10通りの可能性がある。

「分からないということが分かる」状況を利用する点も共通である。⑴では、弟の年齢と同じ数という情報があっても「分からない」ことから、本数＝年齢によっては、勝者の数を特定できないことが分かる。特定できないのは、同じ数が複数回出現するからであり（15本と10本）、それは勝者の数が4人以外の場合である。⑵では、「Bさんも分からない」ことがAさんに分かることを利用して、Aさんに教えられた月は、一回だけ登場する18日と19日を含む5月と6月を除くことができて、7月か8月に絞り込める。

次に、「分からない」から「分かる」への転換が生じる点も共通している。⑴では、「Cさんも負けた」が加わって、勝者5人の場合が排除される。その排除が転換点になって、答えが一つに決まる。一つに決まるのは、指の数の合計が10本でなく15本だからである。こうして、勝者の数は3人に決まる。⑵では、Aさんの発言によって7月と8月に絞られたことで、Bさんの理解に変化が生じる。Bさんには日付だけで7月か8月かを決定できるのだから、教えられた日は、14日を除く15日か16日か17日である。そのBさんの理解の変化により、Aさんも「分かる」へと転換する。ということは、教えられていた月は、一つには絞れない8月を除外できて、7月だと分かる。答えは7月16日になる。

⑴では、本数の絞り込み⇆勝者の数の絞り込みの往復を利用して答えに至るのに対して、⑵ではAさん視点⇆Bさん視点の往復を利用して答えに至っている点も、共通である。（789字）

【設問Ⅱ】

設問Ⅱでは、消費者庁が実施した「令和3年度消費者意識基本調査」において、SDGsやエシカル消費に関する取り組みについて尋ねた結果を分析し、字数制限内で論述する能力を判断する。

問1では、2つの図から読み取れることを記述することが求められる。10代後半、20代、30代の回答を比較したり、図2の項目をいくつかのまとまりに分けたりすることで、情報の論点を整理し、的確に記述する能力を問う問題である。理解度を判断する基準としては、年代を通じて共通している部分と年代差がある部分の双方に着目することや、「取り組んでいない理由」を取り組み自体の要因と周囲の環境の要因に分けて記述することなどが挙げられる。

問2では、SDGsやエシカル消費に取り組む人を増やすための方法を図1と図2の結果に基づいて考え、論理的に説明する能力が問われる。論点の例として、「興味があるが取り組まない人」と「興味がない／分からない人」に対して異なるアプローチを考えることや、取り組みの対象となる年代ごとに異なるメディアを介して周知する方法を考えることなどがある。データの理解度だけでなく、社会についての知識や関心の程度も評価することがねらいである。